

第9章

音読・シャドーイング指導における諸問題への対処法

9.1 音読指導をしても、生徒が音読しない

9.1.1 生徒に学習意欲がないことが原因の場合 (pp.289-291)

学習意欲が低い生徒たちには、次の音読の利点を繰り返し説明し、今まで見てきた音読活動を体験させ、その効果を実感させることが必要。

- ①発音が上達する
- ②話す力や書く力が伸びる
- ③脳科学が音読の大切さを説明している
- ④音読は脳の力を高める
- ⑤声に出してこそ覚えられる
- ⑥英語の語順にしたがって英文を読むことができるようになる
- ⑦読むスピードも速くなる
- ⑧リスニングも上達する

9.1.2 これまで音読指導を受けてこなかったことが原因の場合 (pp.291-292)

◇記号やカタカナを効果的に使う

◇教師がフレーズごとにポーズを置いて読み、ポーズを徐々に短くする

9.1.3 生徒が声を出すのを恥ずかしいと思うことが原因の場合 (p.292)

p.292 を参照。

9.1.4 クラスメートから冷やかされたりすることが原因の場合 (pp.292-294)

冷やかしの対象…

- ①長期海外生活体験者などでネイティブに近い発音がねたまれる場合
- ②クラスの標準に程遠い場合

9.1.5 音読は入試に課されないので必要ないと生徒が考えている場合 (pp.294-295)

音読活動を通して入試問題レベルの文章を日頃から暗唱するまで練習することが読解に効果的。

9.2 音読するときの生徒の声が小さい (pp.295-296)

- ◇ペアワークの相手の位置を遠く話す
- ◇音源を最大ボリュームにする

9.3 月日が経つにつれて生徒が音読に熱心に取り組まなくなる (pp.296-297)

生徒が音読すること飽きないようにするために多様な音読指導法を組み合わせさせて教える。

- ◇全体読みを工夫する
- ◇褒める
- ◇ペアワークで共同意識を高めさせる
- ◇日々の音読活動を評価する
- ◇良いモデルを紹介する
- ◇難易度の低い題材でシャドーイングする

9.4 教師や CD のあとについてならできなのに、各自あるいはペアでは音読できない (pp.297-298)

- ◇単語の発音確認を徹底する
- ◇音声モデルを提示する前に、音読する機会を与える

9.5 意味を考えずに音読する傾向がある (p.298)

- ◇音声化と意味処理
- ◇音読練習をアウトプット活動に結び付ける

9.6 一応音読はしているが、平板な音読になっている (pp.299-300)

音読が平板になる理由…生徒にとって音読の良いモデルを提示できていないから。
→毎時間の授業で耳にする教科書付属 CD の音読や教師自身の音読が平板である。

9.7 音読練習をさせると、早く終わった生徒やペアはおしゃべりしたり、遅い生徒やペアは、終わっていないのにごまかして着席してしまう (p.300)

- ◇早く終わった生徒にもすることを与える

◇不正をする生徒に注意するのではなく、正直な生徒を褒める

9.8 家で音読練習をしない生徒がいる (pp.300-301)

- ◇授業中に短時間で集中して自習音読をする練習をする
- ◇保護者の理解を得る
- ◇音源を与える

9.9 音読指導に熱心でない同僚と同じ学年を指導することになった場合 (pp.301-302)

pp.301-302 を参照。

9.10 音読指導に割く時間を確保できない (pp. 302-303)

- ◇毎時間の授業のどこかに音読指導の時間を位置づける

9.1.1 隣の教室で授業している同僚から「やかましい」と言われる (p.303)

- ◇授業を公開して、英語科の特性を同僚や管理職に理解してもらう

感想・考察

本章は今までの章とは違い、指導方法ではなく、実際の教育の問題に対する対処法について紹介されている。

生徒のモチベーションは考慮しないわけにはいかない重要な課題である。

いくら質の高い指導法を考案しても実際にそれを生徒が実践しないのならば、その指導法の効果は完全なものとは言えないだろう。

本章で紹介されている内容は実際に指導をする教師の方々にはぜひとも見ていただきたいものである。